

縄南中通信



平成29年 2月 1日 発行
2016年度 第10号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校
校長 日比野功

縄手南(小中一貫)施設分離型義務教育学校(平成31年度開校予定)教育理念

「縄南道」による20才の成人式には

当たり前前の行動を当たり前前に実行できる人の育成

「縄南道」を全員で高めることにより「縄南道」が進化する！

先日、大阪少年鑑別所所長の「少年鑑別所から見た最近の少年非行の特徴等」という題の講演を聞かせて頂く機会がありました。講演の内容は、日頃から「縄南道」で伝えている内容と同様のことが多くありました。鑑別所の入所者の7割は初回入所者で、3割は再入所ということが現実です。これはいつの時代も変わらないことのようにですが、再入所する少年の特徴として、「言い訳をする」「何事も人のせいにする」「規範意識が乏しい」等の理由をあげておられました。「縄南道」では、「言い訳は進歩の敵である」と伝えています。何事もそうですが、「継続する」ということは、そうそう簡単なことではありません。簡単なことではないからこそ、日頃から常に鍛錬を必要とします。毎日毎日の小さなことのコツコツとした積み重ねが「継続」となります。「やる気があるかないか」ではなく、「やれたのかやれなかったのか」ということが結果として求められます。やれなかったことに、あるいはやらないことに「言い訳」をしたり、「自分のせいではなく人のせい」にしたりすることは、結局は「いい加減」「適当」「だいたい」という「敗因」につながり、決して「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」という「勝因」につながるものではありません。「縄南道」は「人格形成」ですから、常に「自分自身との勝負」をしなくてはなりません。

また所長は、「非行」という現実をとらえて、『どうすれば「非行」がなくなるか』という答えに対しては、逆に講演受講者に対して『みなさんはなぜ「非行」をしなかったのか』と考えてみて下さいと問いかけられました。人によって理由は異なりますが、「非行」に手を染めない理由として、「親やお世話になっている方々に迷惑をかけたくない。」「部活動を一生懸命がんばっているので、非行には興味がない。」「自分の将来を考えて、非行に手を染めるべきではない。」「そもそもいけないことだから。』といった考えや意見が大半をしめました。所長は、『つまり何故「非行」に手を染めてしまうかという問いに対しては、今、皆さんが思い浮かべられた物が非行に手を染める者にはないのです。』と話されました。つまり、自分が一生懸命取り組むべきもの、大切にすること、大切にしたいこと、将来の夢、そして何より強い規範意識、自分自身の常識のレベルの高さ等といったことを持つこと、育てることが、『どうすれば「非行」がなくなるか』という問いの答えになると話されていました。縄手南中学校では「当たり前」のレベルを上げ「日本一」を目指しています。「日本一」を目指すために「勝因」となる「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」を大切に、「敗因」となる「いい加減」「適当」「だいたい」に気づき「勝因」を意識しようとしています。また、誰にでも今すぐにできるはずである「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」をモットーとし取り組んでいます。「感謝の気持ち」を持つことや、自分との勝負に挑戦することなども含め、所長のお

話を聞き、再度「縄南道」をさらに全員で磨きあげる必要性を大いに感じました。

「日頃の言葉づかい」のレベルアップで「勝因」を磨く！

「当たり前の行動を当たり前に実行できる」ために、「当たり前」のレベルを高めることの必要性は当然のことです。日頃の「当たり前」の意識やレベルが高くなればなるほど、より高い「当たり前」のレベルに目標を設定することができます。以前にも話したことがあります、高い山を登ると、その向こうにさらに高い山が見えます。何事もやればやるほど、さらに高い次の目標や壁が見えてきます。長いトンネルの中で出口がわからず立ち止まっても、絶対に出口に到達することはできません。例え遠回りでも、一歩ずつ一歩ずつ進めば必ず出口の光は見えてきます。日頃の「当たり前」のレベルを高めると、最初は気づかなかった「当たり前」のレベルが当然のように身につくこととなります。身につけば意識していなくても自然とできるようになります。これはとても大切なことです。そのために身につけなければならないことは「日頃の言葉づかい」です。これこそ「当たり前」であるにもかかわらずなかなかできていません。「返事！」も「あいさつ！」も「声！」も「ダッシュ！」もまだまだですが、「日頃の言葉づかい」はそれよりもまだできていません。この「日頃の言葉づかい」をきちんと意識し、意識しなくても身につくようになれば、きっと「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」のレベルは高まっていくはずで、さらには「勝因」にも磨きがかかってくるはずで、「先生、俺、何番？この頃がんばってるやろ。昨日も200本バット振ってんで！」と話す選手のチームが勝てる訳がありません。また、その言葉づかいを指導することもなく、「そうか、ええやん。期待してるわ」と答える監督やコーチのレベルも想像がつきます。このチームの日頃の言葉づかいが意識しなくても、「監督、自分は今日は何番でしょうか？この頃必死でがんばれるように少しは成長しました。昨日も意識高くバットを振りました。絶対に期待していて下さい。」と選手がアピールし、監督やコーチがその選手にエールを送り、正しく指示をすることが普通の状態となれば、このチームの常識や「当たり前」が少しは高くなるはずで、当然、「結果」も変わるでしょう。縄手南中全員で「日頃の言葉づかい」のレベルを高め、全員で「勝因」に磨きをかけましょう。

「コミュニティースクールと小中一貫は地方創生の両輪」

1月21日（土）東大阪市教育フォーラム 京都産業大学 西川信廣教授の講演より

1月21日（土）東大阪市教育委員会主催の東大阪市教育フォーラムが開催されました。東大阪市では平成31年度より全中学校区で小中一貫教育を実施します。その中で縄手南中校区と池島中校区は義務教育学校となります。義務教育学校は小中一貫校と違って校長が1人（副校長等を設置する）で、9年間の義務教育課程を横断的に組織することが可能となります。この日の教育フォーラムでは、西川信廣教授（京都産業大学）より、「小中一貫教育とコミュニティースクールは地方創生の両輪」というお話がありました。コミュニティースクールとは、学校運営や学校の課題に対して保護者・地域が参画できるしくみで、教育委員会が学校や地域の実情に応じて「学校運営委員会」を設置する学校を指定します。つまり義務教育における教育活動が地域に理解され、学校運営の方針を「学校運営委員会」が承認することが必須となります。また、縄手南校区では平成29年4月より、縄手南幼稚園と六万寺保育所が一体となった縄手南認定こども園が開校します。開校する認定こども園や、地域教育機関と共に平成31年開校の義務教育学校教育理念を共有し、「縄南道」を縄手南校区の柱として進化させることにより、本校が30年前に開校した「地域に開かれた学校」の理念を本当の意味で継承できるのではないかと感じました。

クラブ等の主な記録

サッカー部 第9回大商大サッカーフェスティバル谷岡杯 第3位